

令和5・6年度 茨城県金融広報委員会指定

日立市立水木小学校「金融経済教育研究発表会」(令和6年11月15日実施)

◇ 学区の特色

本学区には、古墳や集落跡など古くから人々が生活していた跡が残っている。「常陸国風土記」にも「密筑の里」の記事があり、泉に集う人々の様子や山海の珍味の豊富さなどが記されている。泉神社は日立地方の古社として知られ、佐竹氏との結びつきを示す棟札も残されている。また江戸時代末には、異国船の監視のための番所が置かれた。

◇ 学校の特徴

日立市立水木小学校は、令和6年6月28日に、創立135年を迎えた。また、東日本大震災によって、校舎が被害を受けたため、新築(一部改築)され、新校舎は節目の10年目を迎えた。

現在、全校児童数は284人。水木学区コミュニティをはじめ、多数の諸団体のサポートにより、子供たちの安心・安全を第一に教育活動を推進している学校である。



▼参加者内訳

・児童 284名 ・教員 25名 ・金融広報委員会 2名 ・教育委員会 4名 ・他校教員 20名
・その他 3名 合計 338名

研究主題

「主体的に考え、学びを深める児童の育成」

～もの・お金の価値や大切さを知り、実生活に生かす「金融経済教育」を通して～

○研究のまとめ

(1) 各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動を通した金融経済教育の充実

各学年で金融経済教育と関連のある内容を分析し、年間指導計画に重点単元を明記した。その際、各教科同士や、前学年までの既習内容も書き込み、児童の学びの過程が見て分かるようにした。その表を職員室内に掲示することで、各学年の金融経済教育についての取り組み状況を周知できるようにし、研究の進捗状況などを確かめることができた。



(2) 児童の実態把握と実生活に生かす力を高めるための教材の工夫

7月と1月に全児童を対象に、ものとお金に関する意識調査を実施した。

質問	結果(7月)	結果(1月)
1. 自分の持ち物を大切にしている。	97%	98%
2. 自分の持ち物に名前を書いている。	88%	84%
3. 買い物をするときに気を付けていること。 ・ねだん ・つかいやすさ	80% 45%	88% 51%
4. お金の学習は役に立つ。	98%	98%
5. 家庭で話し合っていること。 ・お金の使い方のこと	24%	24%
6. 問題を解くときに今までに学んだことや知っていることを生かそうとしている。	90%	95%
7. 授業に進んで取り組んでいる。	92%	95%
8. 授業中に友達と話し合うことで、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。	85%	82%

「自分の持ち物を大切にしている」と答えた児童は、1月のアンケートで、98%であった。ものを大切にするという気持ちから、自分の持ち物に名前を書いたり、なくしたものをいつかるまで探したりするという行動をとる児童が多く見られる。「お金の学習は役に立つ」と考えている児童も98%に上った。各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などの学習活動において、金融経済教育の視点で、教科等横断的な課題の設定と工夫を行うことで、生活の中で活用することの良さを実感できていると言える。

研究発表報告

① 第2学年・生活科「もっとなかよし まちたんけん」

自分たちが予想したことを元に質問を行うことで、予想と実際の回答を比較し、新しい発見に気付けるようにした。新しい発見や疑問があることで、地域に対しての興味・関心、大切にしていこうとする気持ちをもつきっかけとなった。一緒に探検に行っていない友達に分かりやすく伝えることで、自分が探検した場所以外にも地域の場所や人に親しみを持ち、自分たちの生活と地域が関わっていることを知り、さらに「町のよさ」を大切にしていこうとする意識を高めることにつながった。また、「まちたんけんを」多面的に捉えるとともに分かりやすくまとめることができた。



② 第3学年・社会科「わたしたちの暮らしとまちではたらく人びと」

事前学習として、家の人が「どんな店で買い物をしているか」や、「どんなことを考えながら買い物をしているのか（消費者の「願い）」」をインタビューした。販売の仕事は、消費者の多様な願いを生かした工夫がされていることについて、実感を伴いながら学習を進め、児童自身の消費生活について、より関心を高めることができた。



③ 第5学年・家庭科「食べて元気!ご飯とみそ汁」

栄養教諭をゲストティーチャーとして迎え、食事の役割や栄養バランスについて学ぶことで、食生活をよりよくしようとする意識を高めることができた。みそ汁を作るのにかかる費用を算出することで、金銭面と栄養バランスの兼ね合いについて、意識して学習することができた。



(3) 自ら考え、自ら行動する児童の育成と主体的に学ぶ場の設定

様々な情報の中から選択して課題解決していく児童の姿が、主体的に学ぶ姿であると考えた。そこで、単元計画を十分に構想し、既習の内容や生活の中で経験した内容をもとに、本時の学習課題を解決していけるように、教科等横断的な学習指導の充実を図った。単元に入る前に身に付けているべき力などを考慮して、学習活動を充実させることにつなげた。また、指導案に金融経済教育の視点を明記し、単元で身に付けさせたい力と金融経済教育の関連を意識付けるようにした。



(4) 地域・家庭と連携した金融経済教育の充実

2学年の町探検や、3学年のスーパーマーケット見学など、地域の方々の協力を得て、学習活動を展開することができた。また、2年間にわたり、地域や家庭に向けて「金融経済教育だより」を発行した。学校における金融経済教育の活動について知らせることで、家庭の理解を深め、連携して金融経済教育を充実させることができた。

研究発表会詳細

【日 程】

13:00	13:20	13:25	14:10	14:25	15:10	15:30	16:20
受付	移動	公開授業	休憩 移動	講演会	休憩	全体会 閉会行事	

【公開授業 13:25～14:10】

教 科	単 元	学 年
生活科	もっと なかよし まちたんけん	2年
社会科	わたしたちのくらしと まちではたらく人びと 店ではたらく 人びとの仕事	3年
家庭科	食べて元気! ご飯とみそ汁	5年

【講演会 14:25～15:10 (会場:体育館)】

講師 林家 彦いち 氏

演題 「人生をゆたかにする お金の使い方」



【全体会 15:30～16:20】

(1) 共催者あいさつ

茨城県金融広報委員会 副会長(日本銀行水戸事務所長)

稲見 征史

(2) 研究発表・研究協議

日立市立水木小学校 課題研究主任

田地 美穂

(3) 指導講評

J-FLEC 認定講師

平澤 浩子

日立市教育委員会指導課 指導主事

柴田 雅明

(4) 謝辞

日立市立水木小学校長

於曾能 弘樹